

Title	中國歴史研究法, 梁啓超著
Sub Title	
Author	田中, 萃一郎(Tanaka, Suiichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.1, No.3 (1922. 5) ,p.124(474)- 124(474)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	東西新史乗
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19220500-0124">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19220500-0124</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 中國歷史研究法

(梁啓超著)  
(商務印書館發行)

大正七年の夏であつた財政總長辭職後天津の伊太利租界に隱退中の梁超啓氏を訪ねたら三年を期して完成の見込で中國歴史起稿中であるとの直話があつた。併しその後梁氏は巴里の講和會議の際にも渡歐されたので中國歴史は果して豫定の如く脱稿さる可きや否や危まれるやうになつた。併し中華民國の政界は再び梁氏の奮起を促さねばならぬ機會もあらうが要するに氏の長處は文筆と辯論とに在つて存するのである。それで昨年は天津の南開大學で、『中國歴史研究法』を今春は北京の清華學校で『五千年史勢鳥瞰』を講じ、而して今回先づ昨年の講義を『中國文化史稿第一編』として上海の商務印書館から出版された。今春の講義も何れ第二編として續いて公にされるであらう。學界の爲に喜ぶ可きことである。

專述中國先民之活動。供現代中國國民之資鑑者であること云ふのが梁氏の中國史の定義で、第二章には支那史學史を説き第三章は史之改造を題して國民をして相率めて之を讀ましむ可き新中國史の必要を説き、第四章には史料を分類して一々詳細の説明を加へ、第五章はその蒐集と鑑別とを論じ、最後の章は史蹟の論次を題して個々の事實に拘泥せずして大勢を達觀して因果關係を明にす可きことを主張して居る。この點に就ては或は反對の意見もあらう、併し第貳、第四、第五の三章は支那の歴史を修めんとする人に取て必讀の價値を具へて居ると評してよい。讀んで參考になることも尠く無い。

但し説史料の章の金石の部に本文に於て元至正八年刻於居庸關之佛經、書以蒙古、畏兀、女眞、梵漢五體と述べ更に註に於て五體を説明して學者考定漢字以外、則一蒙古、二畏兀、三女眞、四梵也と云ふてある。葉昌熾の『語石』にも居庸關佛經。蒙古畏兀女眞梵漢五體とあるが是は誤である。寺本婉稚師が曾て『燕塵』誌上に説いたやうにランツァー梵字、西藏字、漢字、西夏字、巴思入蒙古字、ホルイク西藏字となすのも稍や間違つて居つて最後のホルイク西藏字とあるのは即ち畏兀字であるが、兎に角梁氏が今なほ西夏字を女眞字と思ひ込んで居らるるならばそれは實物なり拓本なりを目撃せられぬが爲であらう。尤も右の註に併せて莫高窟造象記の六體文字を模刻し其何體屬何族。則吾未能辨也と云ふてある、而してこの六體は漢文、西夏、蒙古、畏吾兒、蕃藏、であること羅福藎氏の西夏國書略説に見えて居る。漢文から畏吾兒までの四體は勿論羅氏の説明通であるが最後の蕃、藏の二體は稍や曖昧である。スタイン氏の *Serindia* 八〇〇頁に *On makti Puhne hami* is engraved in six different scripts : Devanagari Tibetan Uigur-Turki mongol Hsi-hsia or Tangutan chinese といふてあるが、蕃藏でなくて藏梵である。

(田中萃一郎)